四季の営農
ワンポイント
アドバイス
【園芸指導】

アスパラガスの秋季管理について

【指導員】 園芸課　佐藤　譲

アスパラガスは秋が重要

アスパラガスにとって、秋季は来年のための養分を蓄積する大変重要な時期です。

適切な管理を行い、来春美味しいアスパラガスが勢いよく出るようにしましょう。

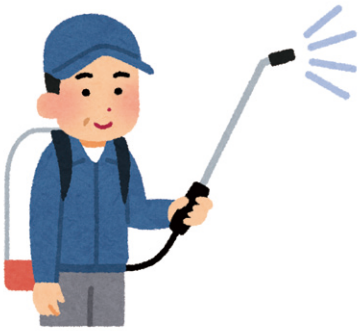
この季節は夜温の低下に伴い、「朝露」の発生がありますが、この「朝露」がアスパラガスの病気である「茎枯れ病」や「斑点病」の蔓延に大きく関係しています。

病気が発生すると擬葉（ぎよう）（針のような葉っぱ）が落ち始め、茎が褐色に枯れてしまい養分を作ることができなくなります。

さらに病原菌は擬葉から土壌に移り、来年の芽吹きと同時に感染してしまいますので、降霜時期までの管理は大変重要になります。

《茎を健全に保つ対策》

①降霜時期まで、適宜潅水を行いましょう
②多量の窒素を与えると茎が若返り養分の蓄積が遅れるので控えます
③発病茎は抜き取り、圃場外に持ち出す
④薬剤防除を定期的に継続散布する
⑤アミノ酸資材やＰＫ資材の葉面散布は光合成を促進し、養分の生成に大変有効ですので、積極的に行いましょう
⑥カルシウム資材の施用は、糖度向上と体内養分の移動をスムーズにします



＜主な光合成促進剤＞

資材名	倍率	散布回数
葉友	1,000	２回以上
ＰＫマグ液肥	200	２回以上
トップスコア・リン	1,000	２回以上
リンクエース	500	２回以上
メリット赤	300	２回以上
ミラクルアミン	1,000	２回
植酸イオンカルシウム	500	１回

※カルシウムとＰＫ資材は混用できません

＜主な殺菌剤＞

薬剤名	対象病害	倍率	年使用限度
アフェットフロアブル	茎枯病・斑点病・褐斑病	2,000	４回
ベンレート水和剤	茎枯病・株腐病	2,000	４回
ダコニール1000	茎枯病・株腐病・褐斑病・疫病	1,000	４回
ロブラール水和剤	茎枯病・斑点病	2,000	５回
ベルクート水和剤	茎枯病・斑点病・褐斑病	1,000	５回

《茎の刈取り時期の判定》

２～３回の降霜により、銀杏の葉のように黄葉した状態になると茎葉からの養分転流は八割程度と言われていますので、刈取りはそのあとに行うのが良いでしょう。刈取り後は茎葉に鼠が寄ってきますので圃場外に持ち出します。

※黄化したアスパラガス

茎葉撤去後は、バーナーで畝上を焼くと病原菌の密度を大幅に減らすことができます。

《秋肥の施用》

窒素５キロ／10アール程度と堆肥と有機石灰を施します。

冬期間の雪解け水と堆肥の腐植酸で肥料成分を土壌深層まで拡散させます。春の萌芽前の施肥はえぐ味の発生を早めますので注意しましょう。